



石打小だより

令和4年3月25日 発行

第 373 (最終) 号



春、動き出す頃

表面、裏面ともに令和三年四月上旬に撮影

忘れない …… そして、前を向く

校長 高野 克彦

「諸行無常」、この語にはある種の諦めや無力感、寂しさを感じますが、だからこそ、何をどうするかをしっかりと考え、具体化していくことが、より大切なのだと、今改めて、自戒しております。

石打小学校の教職員は、この学校で得がたい経験を重ねさせてもらいました。学校教育の方向性を、地域、家庭の皆様が、全力で支えてくださいました。教育実践を進める中では、指導の意図をうまく伝えられなかったこと等、幾多のこぼこがあったことと思います。そんなすべてを、温かく見守り、時には支え補い、いつも励ましていただきました。

学校教育は、学校だけが頑張ろうとしても決してよい結果は出ません。地域、家庭、学校が、子どもたちの健全な成長を第一義として、力を合わせる事が不可欠です。石打小学校には、学校教育の理想がありました。

教職員は統合校に勤務する者もいれば、他校に異動する者、新たな環境で勤務、生活する者など様々です。でも、どこで教育活動にかかわろうとも、石打小学校の実践を一つの目標として日々の活動を進めていくことでしょう。

私が、離任式で子どもたちに伝えたことは、「旧上関小学校、旧石打小学校、それぞれが慣れ親しんだやり方や学校文化はあるけれど、それらを互いに謙虚に受け止め、よりよいものを創造していったほしい」という一点に集約されます。

統合校における活動が、まもなく動き始めます。未来を担う子どもたちが、健やかに成長していくことを信じています。そして、皆様のご活躍を祈念いたします。

これまでの日々に、皆様に、重ねて感謝申し上げ結びとします。 **ありがとうございました**



お世話になりました 衷心より感謝申し上げます

ありがとうございました